

令和3年度 総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和3年12月8日(水) 開会 午前10時00分
閉会 午前11時35分
2. 会 場 根室市役所 3階 大会議室
3. 出席者等 根室市長 石垣 雅 敏
(根室市教育委員会) 教育長 波 岸 克 泰
委 員 岩 崎 園 子
" 魚 谷 直 世
" 兒 玉 歩
(事務局職員) 教育部長 園 田 達 弥
教育総務課長 藤 澤 進 司
教育支援担当主幹 上 原 哲 朗
学校教育指導室長 高 野 智 晴
学校教育指導主幹 山 谷 良 雄
社会教育課長 餅 崎 幸 寛
社会体育課長 森 本 崇 起
図書館館長 松 崎 誉
総務主査 飯 島 美 紀
学校教育主査 川 嶋 哲 哉
(傍 聴 者) 4名

4. 付議事項等

- (1) 学校現場からの取組報告及び意見交換
- (2) 新型コロナ禍での教育について
- (3) 市教委各課の課題と将来に向けた取組

5. 議 事

<藤澤教育総務課長>

ただいまから令和3年度総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、主宰者であります石垣市長より挨拶いたします。

○ 石垣市長あいさつ

<石垣市長>

令和3年度の総合教育会議開催に際しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆さんにおかれましては、日頃より本市教育行政の推進に、多大なるお力添えを賜っておりますとともに、本日は大変お忙しい中、ご参集いただき、誠にありがとうございます。

さて、本日の総合教育会議につきましては、平成26年の地方教育行政法の改正に伴

い設置されたものであり、自治体の長と教育委員が一堂に会して教育行政について意見を交わすことで、両者が教育政策の方向性を共有し、一致した考え方で執行にあたることを目的とするものであります。

今回で8回目の開催となりますが、皆さんと有意義な情報共有および意見交換ができればと考えております。

私は、今年度の市政方針において、将来を担う子どもたちが主体的に自らの未来を拓いていくため、学力向上対策を始めとする「幼保小中高教育連携事業」、通級指導教室の拡充、教育支援の体制強化、さらには、市立学校の「給食費無償化」などの各種政策を掲げ、市教委との連携のもと、積極的に推進して参ったところであります。

また、新型コロナ禍にあっても、市民の学びを止めないための取り組みとしまして、学習、発表機会や芸術鑑賞機会の充実をはじめ、オンラインマラソン大会への支援、北方資料研究活用推進事業など、市民皆さんの多様なニーズに応じた教育予算の確保に努めているところであります。

本日は、当市の将来を見据えた教育のあり方について、皆さんと意見交換し、今後の教育施策に活かしてまいりたいと考えております。

教育委員の皆さんにおかれましては、忌憚のないご意見を賜わりますようお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<藤澤教育総務課長>

ありがとうございます。それでは会議に入りたいと思います。

会議の進行は、主宰者であります市長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

(1) 学校現場からの取組報告及び意見交換

<石垣市長>

まず初めに「学校現場からの取組報告及び意見交換」を行いたいと思います。教育部長より趣旨説明をお願いいたします。

<園田教育部長>

趣旨説明（別添資料1）

<石垣市長>

それでは、光洋中学校の藤原校長先生よりお話いただきたいと思います。藤原先生よろしくお願ひいたします。

<藤原校長>

「根室市の子どもたちための学び・育み」～光洋中学校の取組を通して～
取組の報告（別添資料2）

＜石垣市長＞

藤原校長先生、ありがとうございました。

「地域とともにある学校」や「子どもたちの生きる力を育むための活動」などの展開に関する学校現場における取組の報告をいただきました。

ただいまの報告を受けまして、各委員さんが日頃感じている子どもたちの様子や、学校教育に関して感じていることがありましたらお話しいただき、意見交換したいと思います。

まずはじめに、岩崎委員をお願いします。

＜岩崎委員＞

今回のお話にあったピアサポートの授業でコミュニケーションを図る取組は大変良いことだなと思いました。私のように人前で話すことが苦手な子も、訓練することによって人前で話すことの抵抗感が無くなっていけばいいなと思いました。

そのような流れでコミュニティ・スクールで誰かを呼んで、子どもがいろいろな大人と関わることは大切だと考えています。

また、携帯電話についてですが、私の娘が学生だった頃は、高校生になって初めて携帯を持たせていましたが、今は小学生から携帯を持っており、学校では顔と顔を合わせてコミュニケーションを取っていると思いますが、家へ帰ってからは昔と違い、ラインなどの文章でやり取りをしています。その言葉というのは人によって受け取り方が違い、自分も友達とグループラインをやったりしていますが、その言葉に少しだけ傷ついたりすることもあるので、子ども同士だとなおさら思ったことをそのまま考えずに言葉にしたりするので、傷ついてしまう子どももいるのではないかなと思いますので、受け取る方の気持ちになって言葉を選ぶことは大事だと感じます。

＜魚谷委員＞

コミュニティ・スクールに関してですが、設置することがゴールではなく、そこから何をするのかが問題になってくると思います。先ほどのお話にもありましたが、私も光洋中学校でのPTA活動で、地域の皆さんと防災訓練を行いました。今年はコロナの関係でなかなか思うようにはできませんでしたが、昨年、一昨年などは町内会の人などもたくさん来てくれて、「地域との繋がりを形成する」というコミュニティ・スクールの要素、その目的は達成できたかなと思います。

根室は自然災害への備えが特に必要な地域であり、常に危機感を抱いています。良い意味で、この危機感を継続するためにもコミュニティ・スクールを使った防災訓練・災害訓練を行ってほしいと思います。

＜兒玉委員＞

コミュニティ・スクールを設置して、学校に大人が入ってくる、子どもたちが、親でも先生でもない大人の意見を聞けることは大事な機会ですし良いことだなとは思っています。

ただ心配なのは、今の時代は多様性を認めて行こう、例えばジェンダーであったり、様々なことがあります。私たちの世代が受けてきた教育と今の常識が少し違うなど

いうことがあり「今の発言、ちょっとアウトだな」というような発言をされる方、その方々が育ってきた時代の常識であったことが、今の時代でSNSなどで発言された場合、すぐに炎上してしまうのではというようなこともあるかもしれません。

でも意外と子どもたちは柔軟なので、「まあ、お年寄りだからね」という風に対応してくれる場合もあると思うのですが、今は出席番号や背の順で並ぶ場合も男女が混ざってますし、いろんなことが繊細になっていると思うので、その辺りの価値観のアップデートをする機会がない大人の方もいらっしゃると思いますが、そのような方々に学校教育に入ってほしくないという風には全く思わなくて、それもまた多様性、少しでも大人が学ぶ機会があれば、より良いコミュニティ・スクールができるのではないかと思います。

ピアサポート、お互い助け合っていく、困っている人がいたら助けようという大事な気持ちだと思いますが、人として、助けてあげる、とか教えてあげる、とか、やってあげることばかりを考えるのではなくて、助けてもらう、助けてもらえることを考えるのも大事だと思います。

私の（ピアノ教室に通う）生徒の話ですが、「自分は体育がとても苦手だけど、〇〇ちゃんと同じチームになったら得意になった気がして勝つからすごく楽しいんだよね、だから自分は音楽の授業の時に、自分と一緒にリコーダーを吹いたら上手になった気がするって思ってもらえるようになりたい」って言っていたのが印象的で、そういった教育をもっともっと盛り立てていただけたらなと思います。

先ほど岩崎委員からお話のあったスマホを持つ年齢が低年齢化していることについて、私の娘も小学校の高学年になり、「いつスマホを買ってもらえるの？」とすごく聞かれ、はっきり返事はしていないのですが、どうしたらいいのかと、まだ親が管理できるうち、親の言うことを聞くうちに持たせた方がいいのか、それともある程度自分で管理ができる年齢になってから持たせるのがいいのか、どちらか覚悟を決めるしかないですが、それぞれにメリットデメリットはあると考えており、今は学校でもタブレット教育が進んでいて、1人1台タブレットを持ってやっているのでも、上手に使えるスキルも今後必要になると思うので、あまり悪い面ばかり見て「ダメだよ」というのも良くない気がしますし、本当に難しいなと感じています。

<藤原校長>

今お話にあったとおり、SNSによるトラブルで過去にかなりひどい状況になったこともあります。つい先日の出来事ですが、子ども同士でちょっとしたトラブルが起きた時に、生徒が、こんなやり取りがあったということを先生に見せてくれたことがあり、その中で、かなりひどいことを言っている子がいて、その子に対して「それは言い過ぎだよ、そんなことをもし私が言われたら本当に嫌だからやめて、あの人に対してもそういうこと言うのやめて」という発言をする子がいたり、子どもたちの中で単に「ひどいことになっている」というだけではない、いろんな様相がその中にはあるなと感じています。

また、先ほどお話にあったように、SNSの使い方に関するスキルを上げるための訓練は必要だと思います。あとは大人が、リアルな世界の楽しさや面白さにどれだけ子どもたちを引きずり込めるか、その部分が充実している子は、先ほどの例のような

きちんとした発言ができたりしていると感じます。このリアルな世界に引き込むということにおいてはコミュニティ・スクールというのは圧倒的に有効なツールになるのかなという気がしています。

先ほど魚谷委員からお話のあった避難訓練についても、大人も子どもと一緒に「こうなんだね、ああなんだね」と学ぶ良い機会でありましたし、このように大人と子どもが混ざっていく中で色々な新しいことを知っていくというのはとても大事なことでという気がしていますので、このことに関してもコミュニティ・スクールを上手に使うことは有効な手立てであると思いました。

最後に、先ほど兒玉委員からお話のあった「助けてあげる、助けてもらう」ことについてですが、実は本校の目指す生徒像の中に「頼ったり、頼られたりする生徒」というのがあり、これはやはり大事だという気がしています。ピアサポートの訓練の中でも上手に頼ること「困ったんだ、どうしたらいいかな」と言えることが大事であると思っており、先ほどお話ししたSNSでのトラブルの時のように、本校の生徒の良いところは先生方にやり取りの内容を見せて「先生、こんなこと書いてるよ」「これはひどいよね」などとよく話してくれることです。たいていは子どもたちの中だけで留めてしまうものだと思うのですが、ここが根室の子どもたちの非常に良いところなので、そういった部分を活かしてあげたいなと思っています。

<波岸教育長>

根室の子どもたちに対して感じていることをお話させていただきたいと思います。

先日、図書館の事業で行われたカルタ大会があり、幼児から小学校低学年までの子どもが参加しており、根室の良い所を題材にして自分たちで作った大きなカルタを取り合うのですが、最後どうなるだろう、喧嘩になってしまうのではと心配して見ていたら、そのようなことは全く無く、ジャンケンで決めたり、「僕、1枚持っているからこれあげるよ」などと譲り合う場面もあつたりで、非常に優しい子が多く、根室の子どもたちは心が良く育っているな、素敵だなと感じました。

一方で札幌から来て一番感じるのは、根室では市民皆さんが知り合いという雰囲気、札幌であれば外を歩いている人は誰も知らないからいいだろう、という感じになってしまうのですが、根室の人たちはみんなが知り合いだからその中でのコミュニケーションを取られているのだろうと思います。

先ほどお話されていたようにその中でコミュニケーションを取る意欲は高いのだろうと思います。でもみんな知り合いだからこそ、素直に言える反面、出せないものがある。そして、一人になって自分を振り返るという場面も少ない。そういった中でトラブルも実際に起きていますので、その中で困難を乗り越えていく力、コミュニケーションをとる力などがもっともっと欲しいかなと感じます。子どもたちが自分たちで解決する力を身に付け、大人になった時に自分の立場を理解し、きちんと考えを伝え、相手の立場も受け止めてお互いに磨き合っていく、そんな力が高まっていくと町の発展に繋がっていくと思います。

そうしたことからすると、子どもたちが色々な場面でもっと相談したり、助けられたりする機会を作っていかなければならないと感じますし、そのためには市民を含め、もっと専門的なスキルを持ったスクールカウンセラーの方々と常時繋がるような環

境を構築できないかと、そういったことを考えていくと、問題は突然起こる場合がありますので、このような緊急時に対応するため、これは市長へのお願いになりますが、教育に関する裁量予算みたいなものを考えていただくと、子どもたちの心に寄り添った対応をしていけるのではないかと感じていますので、是非よろしく願いいたします。

<石垣市長>

皆さん、大変有意義なご意見をありがとうございます。教育裁量予算につきましては、私も必要だとは思っています。ただ、市の予算にどのように計上するかは財政課との協議も必要になりますので、今後、市の主要施策を話し合う政策会議などで検討していければと考えています。

藤原校長先生、大変ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

(1) 新型コロナ禍での教育について

次に、議事に入ります。

はじめに、(1) 新型コロナ禍での教育について教育部長より説明願います。

<園田部長>

議案10ページにより説明

<石垣市長>

コロナ禍における当市の教育の推進にあっては、児童・生徒・教員のための、一人一台のアイパッドの配備をはじめとする各種施策について、スピード感をもって対応してまいりました。

学校現場のご尽力により、当市においては、現在まで、児童・生徒の感染者が一人も出ておらず、校長先生をはじめ教職員の皆さんに心より感謝申し上げる次第であります。

コロナ禍での教育について、皆さんからご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

<兒玉委員>

マスクについてです。現在はマナーとして皆さんマスクを付けており、小学5、6年生以上であればきちんと付けていますが、小さい子にとっては上手に使うことは難しく、精神的に良くない影響があったり、マスクの中が鼻水やよだれで汚れてしまいそれをまた付けたたり外したりするので、逆に衛生的ではなくなっているのではないかと感じます。また、マスクをしていない時の方が、子どもの顔色や唇の色をみて体調が悪いことなどにも大人が気づきやすいということもあります。医学的にはマスクを付けた場合の予防効果はどれくらいあるのか、メリットデメリットを考えた時に、風邪症状等がない子でも、全員が付けましようというのはそろそろ見直しが必要なのではないかと感じているところです。

<園田部長>

市では毎週、保健課から情報をもらいながら対策本部会議を開催しております。

その中で事務局へも意見を伝え検討していきたいと考えておりますが、一番根室にとって厳しいところが「風評」ということであり、それぞれ校長先生であったり園長先生であったりは「絶対に自分の教育現場からコロナ陽性者を出したくない」という思いがあります。

また、根室市で初めての陽性者が出てから2年になりますが、当時、学校で早くに陽性者が出た中富良野町に連絡して状況を伺ったところ、学校においては、とてもマニュアルを遵守するような状況ではなく、誰々さんが罹った、といったような噂が錯綜したことによる保護者対応等に追われ、大パニック状態になったそうです。

根室のような小さい規模の町であれば、もしも医学的にも幼児はマスクを付けなくても良いとなったとしても、これら二つの要素により、学校長や園長がそこに踏み切るのはなかなか難しいことのような気がしていますが、今後、本部会議の方でも良い方法について検討していきたいと思っております。貴重なご意見をいただきありがとうございます。

(2) 市教委各課の課題と将来に向けた取組

<石垣市長>

次に議案の(2)「市教委各課の課題と将来に向けた取組」について、教育総務課から順に発表願います。

- ・教育総務課長 「学校施設の耐震化」 【議案13・14P】により説明
- ・歴史と自然の資料館長 「歯舞湿原の保存活用事業」 【議案15P】により説明
- ・総合文化会館長 「ふるさとの作曲家飯田三郎資料展示室の移転・生誕百十年記念事業」 【議案16P】により説明
- ・社会体育課長 「総合運動公園スケートリンク大規模改修」 【議案17P】により説明
- ・図書館長 「ねむろっこ図書館フェスティバル開催事業」 【議案18P】により説明

<石垣市長>

ただいま各課長から発表のありました事業は、市の政策会議において協議されてきたものであり、あくまでも市教委が「来年度予算要求したい」という段階であります。

行政に市民の声を反映させるため、「市長へのはがき」というものがありまして、最近ですと市内で起きた傷害事件のことや、あとは子どもさんから「給食の量が足りない」と言った内容もありました。給食については、現場の皆さんは努力をしてくれているのですが、給食センター等の設備がないため、できることとできないことがあります。そういった意味では現場に苦勞をさせてしまっていると思っておりますが、そのような中で私はふるさと納税を使った「ふるさと給食」の提供などでバリエーションを増

やすなどしてきました。現場に聞くと量については決して足りない訳ではないとお話でした。しかし、できることが100だとしたら、根室の場合、実際には100までできていないと感じており、何とか100までやりたい気持ちであります。少なくとも根室は食材が豊富な町なので、子どもたちが地域の食材に濃密に触れ合う機会をどうやったら増やすことができるかを考えています。ただこれは単年度でできることではないので、今後も検討を進めていきたいと思えます。

この様な直訴もあったということのお知らせでしたが、先ほどの各課からの取組状況などについて、皆さんからご意見等ありましたらお願いします。

<魚谷委員>

先日、北海道科学大学の教授の方が根室へいらっしゃった時に、今はプログラミング学習がかなり進んでいて、今後も更に拡大されていくというお話を伺いました。その中で地域間格差を感じているところ、今後は英語がプログラミング言語になるよというお話もされておりました。先日、落石小学校で科学大学の教授と生徒さんが来られて、プログラミング学習を行っておりましたが、英語は他の言語と同じで定期的に行う方が身になるのではと思えました。科学大学の方も今後、根室市との連携を更に進めていきたいと言っておりましたので、定期的なプログラミング学習の機会を持てるようにできないかなと思えました。

<高野学校教育指導室長>

プログラミング学習についてですが、先日、科学大学の木村教授と学生さん2名が根室市へ足を運んでくださり、落石小学校の5、6年生を対象に「プログラミングとはどういうことなのか」というところからご指導をいただきました。今回は、突発的でしたが、まずはやってみようかというところから、落石小学校と科学大学に繋がりを持っていただき、開催をしたものです。私の方から木村先生に、今回の落石小学校は7名でありましたが、このような学習を根室市内の全ての小学校でも実際に行えるものだろうかと相談したところ、対応することは可能ですよ、というお返事をいただきました。ただ、市内全ての小学校を回るとなるとそれなりの日数が必要になることから、例えば一週間とか期間を決めて、市内の学校を回っていただくことは可能でしょうかと伺ったところ、それについては時期によりますとのことでしたので、今後相談をさせていただきながら、子どもたちにより多くの学習機会を与えて行きたいと思えますし、先ほどお話のありました地域間格差についても科学大学と連携しながら解消できるようにしていきたいと考えております。

<魚谷委員>

教育というのは、今の投資というよりも、10年後、20年後を見据えた長期的な投資であると考えています。私も根室出身であり一度根室を離れ戻って来ましたが、他の根室から出た方々も、ふるさと納税等でたくさんの応援をしてくれていると思えます。先ほどの藤原校長先生の資料をみると、根室は衰退しているように思うのですが、今、教育に対して10年、20年先を見据えた投資ができていないと、この先、もっと悲惨な将来が待っていると感じます。そうならないためにも、今も多くの教育

予算を措置していただいているとは思いますが、更に教育に関する予算をいただけたらと思います。

<波岸教育長>

先ほども話題になっておりましたが、「まちづくりに向けた教育の在り方」、このことについてもう少し煮詰めていかななくてはならないなと思っています。新たな教育材料としてプログラミング学習や、ほかにも色々なものが入ってきておりますが、子どもたちが10年後、20年後を生き抜く力をつけるために今、何が必要なのか、もう一度考え方を整理して、また色々と相談させていただけたらと思っています。

まちづくりを見据えた学校教育について、ここで議論することは大事なことでありますし、そのような意識を持って校長先生方にも学校経営をしていただきたいと思うところでもあります。

<石垣市長>

熱心な協議、ありがとうございます。

本日皆さんからいただいたご意見・ご提言は、今後の施策検討に向けて、庁内の関係部署とも情報共有してまいります。

その他

<石垣市長>

続きまして、議題の4「その他」について、事務局から何かありますか。

<園田教育部長>

特にありません。

閉会

<石垣市長>

それでは、本日本日予定された議件は全て終了いたしました。

本日いただいたご意見も踏まえながら、当市の将来を見据えた教育施策を、着実に進めてまいりたいと考えております。

本日は貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

<藤澤教育総務課長>

以上をもちまして、令和3年度根室市総合教育会議を終了いたします。

11時35分閉会